

1. KYRIE キリエ

キリエ エレイソン、
Kyrie eleison.
 主よ 憐れみたまえ (ギリシャ語)
 クリステ エレイソン
Christe eleison.
 キリストよ (ギリシャ語)

憐みの讃歌

主よ、あわれみたまえ。
 キリストよ、あわれみたまえ。

2. GLORIA グロリア

グローリア イン エクシエルスィース デオー
Gloria in excelsis Deo. (先唱)
 栄光 非常に高いところでは 神に
 エトゥ イン テッラー パークス オミニブス ボネー ヴォルンターティス
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
 そして 地において 平和 人々に 良い 意志の

栄光の讃歌

天のいと高きところには、神に栄光(あれ)。
 地には、善意の人に平和あれ。

ラウダームス テー ベネディーチムス テー
Laudamus te. Benedicimus te.
 我々はほめる あなたを 我々はたたえる
 アドーラムス テー グローリフィカムス テー
Adroamus te. Glorificamus te.
 我々はおがむ 我々はあがめる
 グラーツィアース アジムス テイビ
Graittias agimus tibi
 感謝を 我々は行動する あなたに
 プロブテル マーニャム グローリアム トウアム
propter magnam gloriam tuam.
 によって 大きな 栄光 あなたの

われら主をほめ、主をたたえ、
 主をおがみ、主をあがめ、
 主の大いなる栄光のゆえに
 主に感謝してたてまつる。

ドミネ デウス、レークス チェーレスティス、
Domine Deus, Rex caelestis,
 主よ 神よ 王よ 天の
 デウス パテル オムニポテンス
Deus Pater omnipotens.
 父よ 全能の

神なる主、天の王、
 全能の父なる神よ。

ドミネ フィーリー ウーニジェニテ、イエズー クリステ
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
 息子よ 一人っ子の イエスよ キリストよ

主なるおんひとり子、イエズス・キリストよ。

ドミネ デウス、アーニウス デイ、フィーリウス パトゥリス
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
 小羊 神の 息子 父の

神なる主、神の子羊、父の御子よ。

クイー トッリス ベッカータ ムンディー、
Qui tollis peccata mundi,
 する人 あなたは取り除く 罪々を 世界の
 ミゼレーレ ノービース
miserere nobis.
 あなたは憐れめ 我々に

世の罪を除きたもう主よ、
 われらをあわれみたまえ。

クイー トッリス ベッカータ ムンディー、
Qui tollis peccata mundi,

世の罪を除きたもう主よ、

スシペ デープレカーツィオーネム ノストラム
suscipe deprecationem nostram.
 あなたは引き受けよ 願いを 我々の
 クイー セデーヌ アドゥ デクステラム パトゥリス、
Qui sedes ad dexteram Patris,
 する人 あなたは座る に 右側 父の
 ミゼレーレ ノービース
miserere nobis.

われらの願いをききいれたまえ。
 父の右に座したもう主よ、
 われらをあわれみたまえ。

クオニウム トゥー ソールス サンクトゥス、トゥー ソールス ドミニス

Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus.

～だから あなたは 唯一の 神聖だ 主

トゥー ソールス アルティッシムス、イエズー クリステ

Tu solus altissimus, Jesu Christe.

最も高い

クム サンクトー スピーリトゥー イン グローリアー デイー パトゥリス

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.

～とともに 聖なる 霊 ～において

アメン

Amen.

かくあれかし(ヘブライ語)

主のみ聖なり、主のみ王なり。

主のみいと高し、イエズス・キリストよ。

聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

3. CREDO クレド

クレードー イン ウーヌム デウム

Credo in unum Deum. (先唱)

私は～を信じる 唯一の 神を

パトゥレム オムニポテンテム ファクトーレム チェーリー エトゥ テッレー、

Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,

父を 全能の 造り主を 天の と 地の

ヴィーゾイビリウム オムニウム、エトゥ インヴィーゾイビリウム

visibilium omnium, et invisibilium.

見える物の 全ての と 見えない物の

エトゥ イン ウーヌム ドミニム イェズム クリストゥム、

Et in unum Dominum Jesum Christum,

唯一の 主を イエス・キリストを

フィーリウム デイー ウーニジェニトゥム

Filium Dei unigenitum.

息子を 神の 一人っ子の

エトゥ エクス パトゥレ ナートゥム アンテ オムニア セークラ

Et ex Patre natum ante omnia saecula.

父から 生まれた ～の前に 全ての 世々

デウム デー デオー、ルーメン デー ルーミネ、

Deum de Deo, Lumen de Lumine,

神を ～の中の 神 光を 光

デウム ヴェールム デー デオー ヴェーロー

Deum verum de Deo vero.

真の

真の

ジェニトゥム、ノーン ファクトゥム、コーンस्पスタンツィアーレム パトゥリ

Genitum, non factum, consubstantialem Patri:

生まれた ～でない 作られた 一体の

ペル クェム オムニア ファクタ スントゥ

per quem omnia facta sunt.

～によって ～する人 全ては 作る ～された

クイー プロプテル ノース オミネース、

Qui propter nos homines,

～する人 ～のため 私たち 人類

エトゥ プロプテル ノストゥラム サルーテム、

et propter nostram salutem,

私たちの 救い

デーシェンディトゥー デー チェーリース

descendit de caelis.

彼は下った ～から 天

エトゥ インカルナートゥス エストゥ デー スピーリトゥー サンクトー

Et incarnatus est de Spiritu Sancto

肉体化する 彼は～された ～により 聖霊

エクス マリーアー ヴィルジネ、エトゥ オモー ファクトゥス エストゥ

ex Maria Virgine: Et homo factus est.

～から マリア 処女 人が 作る

信仰宣言

われは信ず、唯一の神。

全能の父、天と地、見ゆるもの、

見えざるもの、すべての造り主を。

そして信ずる、唯一の主、神の御ひとり子

イエス・キリストを。

(主は) よろずの世のさきに父より生まれ、

神よりの神、光よりの光、

まことの神よりのまことの神。

造られずして生まれ、父と一体なり。

すべては主によりて造られたり。

主はわれら人類のため、

またわれらの救いのために、

天よりくだり、

そして聖霊により処女マリアより

御からだを受け、人となりたまえり。

クルチフィークスス エツィアム プロー ノービース、
Crucifixus etiam pro nobis:
十字架につけられた さらに ~の代わりに 私たち
スブ ポンツィオー ピラートー パッスス、
sub Pontio Pilato passus,
の下で ポンティウス・ピラトゥス 苦しみを受けた
エトゥ セブルトゥス エストゥ
et sepultus est.
葬る

エトゥ レズツレークスイトゥ テルツィアー ディエー、セクンドゥム スクリプトウーラース
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.

彼は復活した 第3の 日 ~によれば 聖書

エトゥ アーシェンデイトゥ イン チェールム、セデトゥ アドゥ デクステラム パトゥリス
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.

彼は昇った ~へ 天 彼は座る ~に 右 父の

エトゥ イテルム ヴェントウールス エストゥ クム グローリアー
Et iterum venturus est cum gloria

再び 来ることになっている ~と一緒に 栄光

ユーディカーレ ヴィーヴォース エトゥ モルトウオース
judicare vivos et mortuos:

裁く 生者らを 死者らを

クーユス レーニー ノーン エリトゥ フィーニス
cujus regni non erit finis.

その人の 王国の ~ない それは~だろう 終わりは

エトゥ イン スピーリトゥム サンクトゥム
Et in Spiritum Sanctum,

~に対して 聖霊を

ドミニム エトゥ ヴィーヴィフィカンテム
Dominum et vivificantem:

主を 生命の与え主を

クイー エクス パトゥレ フィーリオークェ プローチェーデイトゥ
qui ex Patre Filioque procedit.

その~は ~の中から 父 息子と 進み出る

クイー クム パトゥレ エトゥ フィーリオー スィムル アドーラートゥル、
Qui cum Patre et Filio simul adoratur,

~と共に 同時に あがめられる

エトゥ コングローリフィカートゥル
et conglorificatur:

讃えられる

クイー ロクートゥス エストゥ ペル プロフェータス
qui locutus est per Prophetas.

それは語った ~を通じて 預言者たち

エトゥ ウーナム サンクタム カトリカム
Et unam sanctam catholicam

唯一の 聖なる 万人の

エトゥ アポストリカム エックレーズィアム
et apostolicam Ecclesiam.

使徒継承の 教会を

コンフィテオル ウーナム バプティスマ
Confiteor unum baptisma

私は認める 唯一の 洗礼を

イン レミッスィオーネム ベツカートールム
in remissionem peccatorum.

~のためには 容赦 罪々の

エトゥ エクスペクトー レズツレークツィオーネム モルトウオールム
Et exspecto resurrectionem mortuorum,

私は待ち望む 復活を 死者らの

エトゥ ヴィータム ヴェントウーリー セークリー、 アメン
Et vitam venturi saeculi. Amen.

生命を 来たる 世の

ポンシオ・ピラトのもとにて、

われらのために十字架につけられ、

苦しみをうけ、葬られたまえり。

聖書にありしごとく三日目によみがえり、

天にのぼりて、父の右に座したもう。

栄光のうちに再び来たり、

生ける人と死せる人とを裁きたもう、

主の国は終わることなし。

われは信ず、主なる聖霊、

生命の与え主を。

聖霊は、父と子とよりいで、

(聖霊は) 父と子とともに拝みあがめられ、

讃えられる。

また預言者によりて語りたまえり。

そして信ずる、一つの聖なる普遍的な

使徒伝来の教会を。

罪の許しのためなる

唯一の洗礼をみとめ、

待ち望む、死者のよみがえりと、

来世の生命とを。 アーメン。

4. SANCTUS サンクトゥス

感謝の讃歌

サンクトゥス、サンクトゥス、サンクトゥス
Sanctus, sanctus, sanctus,
神聖である

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、

ドミヌス デウス サバオトトゥ
Dominus Deus Sabaoth.

主は 神 万軍の

万軍の神なる主。

プレーニー スントゥ チェーリー エトゥ テッラ グローリアー トゥアー
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.

主の栄光は天地にみつ。

たくさん物 ~である 天は と 地は 栄光でもって あなたの

オザンナ イン エクシエルスィース

Hosanna in excelsis.

ホザンナ (万歳、救い給え) ~において 非常に高いところ

天のいと高きところにホザンナ。

BENEDICTUS ベネディクトゥス

ベネディクトゥス

ベネディクトゥス クィー ヴェニトゥ イン ノーミネ ドミニー
Benedictus qui venit in nomine Domini.

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

讃えられる その人は 彼は来る ~において 名前 主の

天のいと高きところにホザンナ。

Hosanna in excelsis.

5. AGNUS DEI アニュス・デイ

平和の讃歌

アーニユス デイー、クィー トッリス ペッカータ ムンディー、
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、

小羊 神の その人は 取り除く 罪々を 世の中の

ミゼレーレ ノービース

miserere nobis.

(あなたは) 憐れめ (命令) 私たちに

われらをあわれみたまえ。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、

ドナー ノービース パーチェム

dona nobis pacem.

(あなたは) 与えよ (命令)

平和を

われらに平安を与えたまえ。

発音に注意

KIRIE……………eleison の s は、母音に挟まれているが、ズと濁らず「ス」で読むのが通例。

GLORIA……………教会ラテン語では magnam はマグナムではなく「マーニャム」と読む。

pater は正しいラテン語としてはパーテルではなく「パテル」と読む。

agnus は古典ラテン語ではアグヌスと読んだが、教会ラテン語では「アーニユス」と読む。

suscipe の sci は「シ」と読み、スイにならないように。ミサ曲でシの発音が現れるのは suscipe のみ。

CREDO……………consubstantialem の b はブ[b]と濁らず、「ブ[p]」と読む。-bs- や -bt- の b は濁らない。

Maria はラテン語ではリーを強く長く「マリーア」のように呼ぶ。「マリア」は海の複数形で無関係の単語。

cujus はクーユスで表記されるが、「クイユス」のほうが正しいかもしれない。

regni はレーニーで、ニはニャ・ニイ・ニュ・ニェ・ニョの「ニイ」。

catholicam の tho は h を発音せず「ト」です。

expecto はエクスペクターではなく「エクスペクター」のようにスは2回発音する。

SANCTUS……………Sabaoth はサバオトトゥ、語尾は「トゥ[t]」です。

Hosanna は Osanna と書く。ラテン語では h は発音せず、「オザンナ」と読む。CREDO の homo も「オモ」。